

栄光園だより
第137号
2024年10月31日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
<http://www.eikoen.jp/>
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

実践を支えてくれた

3つの言葉



河野 洋子

- 特定非営利活動法人 Eikou-en 代表理事
- 大分大学福祉健康科学部 社会福祉実践コース 講師
- ことも家庭庁 審議会委員

今から24年前の2000(平成12)年10月、私は中央児童相談所に異動し、ケースワーカーとしての仕事に就きました。行政職員として15年以上の経験、福祉や保健分野の知識は多少なりともありましたが、こどもの直接支援の現場は初めてで、これから多くのことを学ばなければならないと覚悟したことを思い出します。初日に受けた最初の電話は虐待通告でした。とにかく、息つく間もなく次々に電話が鳴ります、当時のケースワーカーは私も含めて4人だったので、着任したばかりの私でも、緊急対応のため、現地に飛び出していく。こうして、あれこれ考へる間もなく、私のことも家庭福祉にかかわる日々がスタートしました。

児童相談所勤務になって一番驚いたのは、こどもや家庭を支える現場(児童相談所はもちろん児童養護施設等の施設も含む)の何もかもが脆弱で、社会との距離があり、放置されていたような状況だったことです。人材、体制、予算、社会資源など、すべてにおいて不足していると感じました。例えるならば、救急搬送が必要な人がたくさんいるのに救急車がない、運転手もない、搬送先の病院もない、病院があっても医者や看護師が十分ではない。当時は、このような「ないない尽くし」の状況だったのです。

しかし、こうした中でも、こどもと真正面から向き合う「人」だけはいました。この「人」との出会いが、その後の私の県職員人生を変えたと言っ

ても、過言ではありません。ここでは、ケースワーカーとして駆け出しの頃に、この「人」たちからいただいた大切な話を3つ紹介します。

一つ目は、ワーカーになりたての頃。担当するこどもに、どのように関わればいいのかわからず焦っていた私に、一時保護所のベテラン職員がかけてくれた言葉。

「河野さん、特効薬はない。だから、こどもにつきあうの。こどもにつきあえば、こどもが教えてくれる。私たちはこどもに育ててもらうのよ」

二つ目は、ケースを少しかけ回せるようになり、わずかに自信を持ち始めた頃。ある施設の職員が話してくれたこと。

「こどもが一番嫌がることは何だと思っ？ それは、大人のすかし。こどもの話を受け止めず、聞いたふりをする。話を上手にかわす人もいる。こどもは大人がどういう対応をするか、すぐに見抜くんだよ」

正直、ドキッとしました。私にも思い当たることがあったからです。こどもにきちんと向き合わない言動は、こどもにも施設の職員にも見抜かれることを悟りました。

三つ目は、困難ケースの支援で行き詰まり自分の無力感を感じていた頃。今でも敬愛する当時の上司がかけて

くれた言葉。

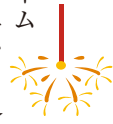
「こども時代の大変な時に、一生懸命話を聞いてくれて、心配してくれて、かわってくれた人、そんな大人がいたってこと、こどもが、将来、漠然とでも覚えてくれていたらそれでいいと思うよ。名前とか覚えてもらえなくてもいい。こどもにとって一番いいことを考えていこう。こどもは、成長していく存在。それを信じて」

こどもを支援される受身の存在と決めつけて、ストレングスや成長という視点を持ち合わせていなかった私に、この言葉も深く刻まれました。

あれから、20年以上経った今、意見表明権をはじめとするこどもの権利保障やウェルビーイングが、改めてクローズアップされていますが、これらの言葉は現在にも通じるものばかりです。支援者としての私の立ち位置や実践を支える土台となりました。これらのこども家庭福祉は、社会の要請に応えて大きく変わっていくことでしょう。しかし、その中心は「こども」であり、こどもの権利を保障し具現化するための大きな役割を果たすのは、私たち大人であることはこれからも変わりません。私が大切にしてきたこれらの言葉を、こども家庭福祉を担う皆さんと共有できれば幸いです。これからどうぞよろしく願います。

児童養護施設

夏の思い出



キャサリンホーム
保育士 竹原 史雅

キャサリンホームは高校2年生から幼児で構成させた5名の男児ホームです。今年はいよいよコロナ感染のため見合わせていた1泊2日のキャンプに行ってきました。場所は横岳キャンプ場です。キャンプ当日は、台風10号の影響で「雨降るかなあ…」「雨降ったらバーベキューどうしよう…」「花火出来ない?」と天候が心配でした。しかし、雨が降るところが猛暑で汗が止まりません。上半身の服の色がほとんど変わるくらいです。

キャンプ場ではバーベキューまでの間、キャンプ場内散策で「針の耳」という岩が重なり合った岩の間をくぐりに行ったり、展望台に景色を見に行ったり、鹿の観察をしたり、大型遊具で遊んだりとゆっくり過ごすことが出来ました。

夕食のバーベキューは普段とは違う環境の中、昼から夜になる空を見ながら、みんなで会話をしながら楽しんで食事をすることが出来ました。購入した食材は余ることなく全て食べ終え、お腹いっぱいになりました。

バーベキューを終え、暗くなってから花火を始めました。色々な花火をしな

がら子どもたちから「花火っていいな」「きれいやな」「すごい火が出よん」など楽しんで行うことが出来ました。

今回のキャンプを通して普段の生活ではみられないような子どもたちの表情を発見することが出来ました。また、花火をあまり経験していない子どももいたため、良い体験になったと思います。楽しい思い出の1ページになることでしよう。



一年を通して

ウエストホーム
保育士 加来 雅也

私が栄光園に入職して一年が経ちました。まだ分からないことや対応に困る場面が多くありますが、当初に比べると「この声掛けは良かったよ!」と言われることも増えてきました。また、ホームの子たちとも最初は距離を感じていましたが、今は子どもから頼られる場面が増えたり、他愛ない話が楽しい

と感じたりと、何気ない日常を子どもたちとともに楽しく過ごせています。

私が所属しているウエストホームは2歳児、4歳児、幼稚園の年長、小学校3年生、高校2年生の計5名の男の子のホームです。その中で私は2歳と4歳の兄弟児を4月から担当しています。プレッシャーが重く不安な気持ちでいっぱいでしたが、ホーム職員の先輩方が親身に相談に乗ってくれているおかげで頑張ることが出来ています。二人を児童発達支援事業所に繋げるために、見学や会議を重ね、8月より児童発達支援事業所に通い始めることもできました。

先輩方の支えや教えもありとてもいい経験と学びになっていきますし、何よりも日々の子どもの成長を感じられる喜びは、2年目を迎えた私にとって、大きなやりがいとなっています。

今後も、子どもたちの成長に繋がることや、子どもたちのためにやってみようということを次々と実践していきたいです。

乳幼児総合支援センター 栄光園

大先輩の見学

センター長 安西 恵子

9月19日に50年前に乳児院や児童養護施設で保育士や栄養士として働いていた大先輩の5名の方が、乳幼児総合支援センターの見学にみえました。

「懐かしい。懐かしい」と言いながら栄光園の敷地を見ながら「あの場所に寮があった。乳児院はあそこにあった。桜の木は大きくなったね」など昔話に花を咲かせていました。

「昔の職員は住み込みで、寮に入って生活をしていたので、皆仲良し。今でも仲が良いのよ」と嬉しそうに話されていました。新しい乳幼児総合支援センターを見学して「こんなに大きくなるなんて」と喜んでくれました。

50年前の乳児院長は小郷小福院長だったとのこと、私の中では栄光園の歴史の方。上司で働いていたと聞き驚きでした。小福院長は真面目で几帳面な方だったようで、朝は必ず6時半になると、栄光園の周りを一周して見回るのが日課。乳児院の園庭に前日のスコップなどが片付け忘れていければ、拾い集めて職員に「片づけてなかったわよ」と優しく声を掛けられていたそうです。院長らしく部下に指導されていたと聞き、身の引き締まる思いでした。先輩方の話をたくさん聞き、私たちが栄光園の良き伝統を受け継ぎ守っていかなければならないと感じさせられた一日でした。

「初めて」がいっぱい

うさぎグループ

リーダー 保育士 石川 由衣

現在、うさぎグループは1歳10ヶ月から2歳7ヶ月の3名の子どもたちが生活しています。外遊びに出掛ける

と、季節の生き物や植物を探し、よく歩くようになりまし
た。9月は、志高湖やハーモニーランドなど、たくさん園外保育に出掛けました。一歩、園の外に出るとこともたちの「初めて」がたくさんあります。今回は鯉の餌やりに挑戦です。様々な色をした鯉とその迫力に驚き、なかなか餌をあげることができませんでしたが、眺めている内に興味が湧いてきたようで餌を掴んでいます。ひとつ投げると、楽しさに気づき、目をキラキラさせて私を見ているのです。思わず私は嬉しくなり、笑みがこぼれました。こともたちの「初めて」を一緒に楽しみ、共感することができるととても嬉しく思います。これから「初めて」を共に体験し、成長を見守っていききたいです。

地域イベント開催

保健師 衛藤 真弓



「夏祭り」を別府大学短期大学部初等教育科乳児研究会PUKUPUKU様と乳幼児総合支援センターでコラボ開催しました。地域の親子を招き、子育て支援ホールにて行いました。



学生さんの手作りゲームが並ぶ会場に、甚平姿のこともたちが遊びに来てくれ、一気に夏祭りの雰囲気になりました。こともたちは、おみこし風段ボール電車に乗ったり、玉入れやトンネルで遊んだりする姿が見られました。また、ヨーヨー制作には、こともと一緒に大人も楽しそうに取り組む姿が見られました。人見知りや場所見知り、泣くこともさんもありましたが、常に笑顔の学生さんのおかげで会場は温かく、帰る頃にはすっかり慣れ、学生さん抱っこしてもらい笑顔で帰っていきました。イベントを通し、乳幼児総合支援センターが地域の親子にとって身近な場所になってくれたらと思っています。



養子縁組里親支援機関

ブレス・ユー

里親等相談支援員
保育士 本庄 公多子

令和6年4月より大分県から委託を受け「養子縁組里親支援機関ブレス・ユー」が誕生しました。

昨年10月から一般社団法人ヘアホープのコンサルテーションを受けながら、養子縁組里親に特化した募集説明会や面談、認定前研修等の準備をしてきました。今まで児童相談所で行われてきた業務を引き継ぐにあたって、私自身も昨年一年間児童相談所に研修生として勤務し、里親に関する業務を学びました。

養子縁組里親支援機関の内容としては、主に養子縁組里親のリクルートから研修・実習までを一貫して行うこと、養子縁組里親、特別養子縁組が成立した家庭の相談受付や訪問、養子への真実告知やライフストーリーワークの支援、特別養子縁組の裁判手続きのお手伝いなどを行います。

実際、養子縁組里親に興味を持ってもらうためのチラシ作りからはじまり、募集説明会、面接、里親認定前研修など手掛けてみて、運営する大変さを痛感しましたが、ヘアホープや児童相談所の皆さんに助言や指導をいただきながら、また研修チームの仲間たちが資料作りや講

師等を頑張ってくれたおかげで、なんとか前期分の申請者を送り出すことができました。

現在は後期の申請に向けて、説明会や面談を行っているところですが、前期の反省を生かしながら前期よりもさらに良いものにできればと思っています。

ところで、「ブレス・ユー」は「あなたと子どもをつなぐ」あなたを祝福する」という意味がこめられています。子どもたちの幸せのためにブレス・ユーは子どもをとりまく大人にも幸せになってもらいたい、そのためには一緒に不安や悩みを解決できるように考えていきたいと思っています。

特別養子縁組は、成立すれば終わりではありません。法律上の親子関係になっても、子どもの出自に関することやご自身になんらかの課題が出てきたときに、誰に相談をすればよいのか、実際に悩んでいる家庭があります。そのようなときにブレス・ユーが少しでも養子のお役に立てればと思っています。

まだまだ、進みだしたばかりで私たちも戸惑うことや課題もありますが、様々な方たちのアドバイスもいただきながら、これからも頑張っていきたいと思っています。



こどもの居場所

毎日学校から「ただいま」と元気に帰ってきます。おやつを食べて宿題を終わらせてみんな自分の好きなことを楽しんでいます。

サッカーや卓球をして体を動かして楽しんだり、メダカのためにビオトープとまではいきませんが水槽を作ったり、野菜の種をまいたり苗の植え付けをするなどこどもたちに豊かな日常を過ごしてもらいたいと様々な取り組みを行っております。

これから必要となってくるのが、こどもたちの学習支援ではないかと考えます。こどもたちに学習の大切さや楽しさを伝えていけたらと考えております。皆様のお力をお貸しください。ご協力いただける方は是非ご連絡ください。よろしくお願いいたします。

子どもの居場所主任 原田 康子



青山保育所

どんな味がするかな？

保育士 原 美香子

秋の食べ物が美味しい季節がやってきました。うさぎ組0歳児のお友だちは午後のおやつで旬のフルーツ(ぶどう・梨・オレンジ)を食べました。食べる前にみんなで丸ごとのフルーツを触ってみました。初めはおそろおそろ指でツツンと触っていましたが、慣れてくると手のひらで触ったり揺らしてみたりしていました。早く食べたいと言っているかのように「あー、うー」と声を出している子どももいます。



をもちたくさん食べられるよう工夫を凝らしていきたいです。



た。今後ものは食材に「これはどうだろう」と子どもたちのワクワクする気持ち大切にして、食べ物に興味

聖書の言葉

(マルコによる福音書12章33節)

そして、「心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛する」ということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています。

別府不老町教会 牧師 尾崎 二郎

イエスは、私たちに「心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛しなさい」と言われ続けています。このみ言葉は、愛の律法とも呼ばれ、私たちにとってとても大切なみ言葉の一つです。

持っています」という百点満点の解答が瞬時に返って来ました。

イエス様がこの様に言われているのは、「ただ、あなたに対する主の愛のゆえ」(申命記7章8節)であると聖書には記されています。まず、主なる神が私たち一人ひとりを愛して下さっていることから、私たちの救いの歴史は始まっているのです。

果たしてこれで良いのでしょうか？イエス様はこういった「賢い」道を歩まれることはありませんでした。彼はこの地上にあつて弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれました。(ヨハネによる福音書13章1節)その後、御自身が「いけにえ」として十字架につけられて苦しめられて死なれました。それから三日目に復活をされて、今も私たちにみ言葉を聞かせ続けておられるのです。

「人間の叡智が歴史を切り開き、人間の進化は良い方向へと向かっていく」といった考え方は、現代の多くの人たちが共有している価値観です。試しにこの通り(CAIPT)に入れてみますと「人間の叡智が歴史を切り開き、進化が良い方向へと向かうことは、多くの人々にとって希望の象徴です。科学、技術、哲学、芸術など、様々な分野での人間の知恵と努力が集結して、社会や生活をより良いものにする道筋を築いてきました。たとえば、医療の進歩により多くの病気が治療可能となり、人々の寿命が延びました。(中略)もちろん、課題や問題も存在しますが、人間の叡智がそれら乗り越え、より良い方向へと進む可能性を

この様にイエス様は御自身が「愚かな」手段を取って、神の愛を全ての人に伝えようとされています。イエス様を信じて彼と同じ道を歩むことは、一見賢さとは程遠い愚かなことのように見えるかも知れません。しかし、私たちはその愚かさを体験しないままでは、決して成就することがない愛があることを既に知っています。

冒頭の言葉は、二人の律法学者(法律の専門家)がイエス様に対して語った言葉です。イエス様のみ言葉は、どんな贈答や犠牲よりも、愛を育み守るために必要かつ有意義である、ということなのです。イエス様の愛は、広く、長く、高く、深いのです。

イエス様の愛は、広く、長く、高く、深いのです。

お月見団子つくったよ！

保育士 阿部 菜月

きりん組3歳児のお友だちはお月見団子作りに挑戦しました。まずは、白玉粉に水を加えてこね、段々と固まっ
ていく様子を覗き込みながら、力いっ
ぱいこねていました。次に生地を丸め
ると「むずかしい」と言いながらも、保
育士や友だちの丸める姿を真似なが
ら、「一生懸命に丸めてたくさんのお団
子ができました。出来上がったお団子
は、おやつのにきな粉、あんこ、ホ
イップ、バナナアイス、フルーツ缶の中
から自分で好きな物を選んでトッピン
グして食べました。自分で作ったお団
子はとてもおいしかったようで、あっ
という間に完食もしてしまいました。
これからの食育活動でも作る楽しさ
や様々な食材に触れる経験ができるよ
うなクッキングを計画していきたいと
思います。



何の「いやだ」なんだろう

主任保育士 二宮 孝介

先日あるお友だちが事務室の前の
玄関でぶつぶつと独り言を言っていま
した。何やら怒っている様子です。私
はその子の隣に座り、「何かいやなこ
とがあったの?」「まだおもちゃで遊
びたかったの?」など考えつくことを
その子に聞いてみました。初めは気
持ちは興奮している様子でしたので、
何を言っても「いやだ」の一点張りでし
たが、時間がたつにつれて落ち着いて
きて、まだ遊びたかったのにおもちゃ
を片付ける時間になってしまったこと
とが嫌だったということをお話してく
れました。

子どもが言っているこの「いやだ」は
何の「いやだ」なんだろうということが
わかる魔法の言葉があればどれだけい
いかと常々思っています。保育士をし
ていて20数年になりますが、今のと
ころそのような都合のよい言葉には出
会っていません。こうした自分の気持
ちを受け止めてもらったという経験が
積み重なって子どもたちの中に蓄えら
れてしっかりとした心の土台となること
を信じています。保育に近道はない、
一つ一つ丁寧に子どもたちの気持ちに
寄り添うように努めるということの後
輩の保育士たちにも伝えながら、今後
も子どもたちの「いやだ」と向き合っ
ていきます。

お月見の製作をしたよ

保育士 宮本 真耶加

1歳児のお友だちはシール貼りに挑
戦しました。丸の枠に合うように集中
して貼っている姿が見られました。そ
して、指やタンポを使って月に絵の具
を塗り、最後は保育士と一緒にお化け
の顔を描いて素敵なお月見製作が完成
しました。

2歳児のお友だちは紙粘土を使って
うさぎさんのお餅つきをしている姿を
表現しました。紙粘土がどんどん伸び
ていくのを楽しみながら夢中になって
製作していました。

最後に夜空に星のシールを貼り、こ
ちらもとても素敵なお月見製作がで
きました。十五夜の頃に保育園から帰る
ときにまん丸のお月様を親子で見たり
話したりしながら帰る姿がとても微笑
ましかったです。その時に子どもたち
が製作のことを少しでも思い出して
もらえたらと願っています。



野口保育所

暑かった夏も終わり、ようやく朝夕
も涼しくなってきました。今年も残す
ところ2ヶ月、一日一日を大切に子ども
たちと楽しく過ごしたいと思います。
夏から秋にかけての子どもたちの様子
を少しずつですがご紹介していきます。

夏の遊び

保育士 坂本 聖子

汗ばむような日が続く中で、子ども
たちは毎日元気に大好きなプール遊
びや水遊びなど夏の遊びを楽しみま
した。

1歳児クラ
スの子どもた
ちは最初、水
や大きなプー
ルを怖がる子
どももいまし
たが、慣れて
くると笑顔が
たくさん見ら
れるようにな
りました。安全に気をつけながら毎日
とってよい程プール遊びをしまし
た。時には大きいクラスのお友だちと
一緒に大きいプールに入るとても楽
しんでいました。夏の遊びを満喫した
子どもたちでした。



食育活動 「ライブクッキング」を通して

栄養士 平野 久美子

「子どもたちに少しでも野菜を食べてほしい」という思いから、毎月旬の野菜に触れる時間を作っています。その旬の野菜の絵本を読んで野菜をちぎった後、調理室に運んでもらい、調理員との触れ合いの時間を大切にしています。



その日は空になったお皿を見せながら「せんせーぴかぴか」ととっても嬉しそう。苦手な物でも挑戦してみようという気持ちで芽生えるよう、これからも、その手助けをしていきたいです。

夏祭り

主任保育士 末吉 佳奈

8月3日(土)に野口保育所の夏祭りを行いました。今年は「涼くおぼけの世界へようこそ」をテーマに4・5歳児が作ったお神輿や遊びのコーナー、保護者の方にも参加してもらった催し物も大盛況でした。中でも部屋

を丸ごとお化け屋敷にした遊びのコーナーは、泣いてしまう子どももいましたが、お家の方にも喜んで頂きました。



シェイクアウト別府に参加

主任保育士 末吉 佳奈

9月1日は防災の日。別府市内8月30日～9月5日の防災週間に合わせ別府市でも市内一斉安全確保行動訓練「シェイクアウト別府」が行われ、野口保育所も9月2日に参加しました。子どもたちはサイレンの音を聞いて保育士と一緒に布団や机の下に隠

お月見

主任保育士 末吉 佳奈

れ、その後は静かに避難することが出来ました。子どもたちは火災や地震の時の大切な約束を覚えていて、その姿を見て日々の避難訓練の大切さを改めて感じ、これからも毎月取り組んでいきたいと思えます。



お月見の活動は、制作やお面作り、お団子作りなどをしました。玄関には5歳児が紙粘土で作ったお団子、すずきを飾りました。「昨日、月まるかったね！」など子どもたち同士で話したり、給食の先生が作ってくれたお月見のメニューも子どもたちは大喜びで食べていました。



地域交流事業 集いの場くるみ

地域支援担当 原田 康子

8月の活動



今年の夏は、こどもたちにキャンプの体験をさせてあげたいと考え、小学生対象の日と中学生対象の日の2日間を予定していましたが、小学生のデイキャンプは諸事情により実施することができませんでした。

中学生を対象のデイキャンプを8月3日に行いました。和気あいあいとテントを立てたり、かまどでご飯を炊いたりカレーを大きな鍋で作るなど夕食づくりもみんなでした。暑い最中のデイキャンプでしたので途中かき氷を食べながら休憩を取り、みなとおしゃべりを楽しんでいました。そんな何でもない時間が楽しそうでした。





この日は、明治安田生命の方たちがボランティアで参加してくださいました。将来のお金の使い方や貯め方などのお話をしていただいたり、児童とゆつくりといろいろな話をしてくださいました。中高生にとっては、様々な考え方や思いを持った大人と出会い、いろいろな話を聞くことで心身共に成長していけるきっかけとなったのではないかと思います。

食後には、スイカ割や花火を楽しみました。きれいな吹上花火に歓声を上げ、手持ち花火で和気あいあいと笑いあいながら楽しい時間を過ごすことができました。今回のデイキャンプにご協力、ご尽力いただいた皆様ありがとうございます。

また、19日、20日の2日間学習支援の日を設けました。大分大学の学生さんに、子どもたちの夏休みの宿題をみていただきました。今回の取り組みが、今後の学習支援につながっていくよう願っています。

9月の活動



9月のくるみは、「ポッチャ」を楽しみました。これまでも何度か経験した遊びなので遊びのルールもわかっており、作戦を考えたりしながらポッチャを楽しめていたようです。ポッチャを楽しんだ後は、この遊びは、重度障がい者センターの木畑さんに教えていただいた新しい遊び「ユニモルック」をしました。初めての遊びでしたがすぐにルールも理解して楽しんでいました。食後、おもちゃライブラリーでいろいろなおもちゃで遊んだり、好きなおもちゃを借りたりしました。その後は、お待ちかねのゲーム「太鼓の達人」をみんなで楽しみました。そして、最後にジャガイモの植え付けをしました。



けをしました。前日から畑の準備をして当日みんなの手で小さな種芋の植え付けをしてもらいました。冬には、たくさんジャガイモが収穫できることを願っています。今回は、楽しいこと盛沢山の一日でした。

おじいちゃんおばあちゃん いつまでもお元気で！

敬老の日、以前から交流のある一燈園(堀田)のおじいちゃんおばあちゃんにメッセージカードをお届けしました。これからもいろいろな形で交流していきたいですね。



2024年度7〜9月 職員の動静

- 採用
- 青山保育所
- 堀 昭子 (調理員) 7月24日付
- 児童養護施設
- 姫野 弥生 (調理員等) 9月1日付

集いの場くるみ 今後の活動予定

● 10月26日
くるみのハッピーハロウィン！
自作のコスチュームで仮装して「トリックオアトリート」といろいろな場所を訪問します。

● 11月16日
しめ縄飾りを作ろう
稲わらで縄を編みましょう。昔ながらの編み方を教えてもらいましょう。

● 12月21日
クラシックライヴ&くるみのクリスマス会
100万人のクラシックライヴです。生のバイオリンやピアノの音色を楽しんでください。そして、みんなでクリスマス会を楽しみましょう。

● 1月6日
学習支援の日
大学生のお姉さんと一緒に勉強をしましょう。わからないところも丁寧に教えてください。ぜひ参加してみてください。

● 1月・2月
英語で遊ぼう
外国語を身近に感じてもらいたいと思います。企画したものです。お楽しみに！

グレースホームの集い

栄光園を巣立った卒園生、栄光園を支援して下さる皆様、そして、ここで生活している子どもたちや職員の集いの場として、「バーベキューの夕べ」を例年8月に行ってまいりましたが、今年度は、気候の良い秋に行うことと致しました。11月3日(日)11時より、旧乳児院にて開催します。事前にお電話をいただければ助かります。もちろん参加費は、無料です。お志等も固く辞退させていただきます。

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員の励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

【2024年7月1日より2024年9月30日まで】

賛助金

- 伊勢方信様 別府市
- 影山隆之・由利様 大分市
- かなや小児科様 大分市
- 竹内富美雄様 別府市
- 立花旦子様 大分市
- 匿名様 大分市
- 姫野英範様 大分市
- 帆足和生様 別府市
- 松本常圃様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市
- 島田晋様 大分市

一般寄付

- 岩田智子様 大分市
- 加藤敏夫・千佳様 竹田市
- 里の駅ふるさと市場R213駅長 大分市
- i オリーブ代表 木付弘子様 国東市
- 匿名様 別府市
- 匿名様 別府市
- 山口巧様 別府市
- 山守昭二様 大阪府
- 渡辺匡史様 別府市

自立進学資金

- 安東秀典様 大分市
- 梶原康弘様 大分市
- 神鳥慶子様 杵築市
- 佐藤京子様 別府市
- 平川順子様 別府市

特別物品寄付

- スイカ (株)カーライフ大分代表取締役社長 永田大作様
- なす BNR様
- ドール用抱っこ紐 赤木まどか様
- パン 石窯工房モコモコ別府店様
- お菓子 たんぼば食堂 大柳恵子様
- 本 岡田恵美子様
- スイートポテト ガーデン歯科様
- 麩 (株)豊豫物産会長 三ヶ尻英明様
- 新生児体重計・洋服・紙おむつ 河村恒・千夏様
- わらび餅 甘味処 鎌倉別府鉄輪温泉店様
- ジュース 北方鮮魚店様
- アイスクリーム
- 九州アイスクリーム協会 理事長 上野洋一郎様
- ポテトチップス 清川卓郎様
- パン・プリン ココロト様
- レタス コルディアール農園 RXJapan(株)様
- コルディアール農園 九州電力様
- コルディアール農園 高遠道路トールクロノロジー様
- コルディアール農園 ジェエムエーシステムズ様
- コルディアール農園 (株)ケミックス様
- 衣類・文具・雑貨・米・靴 佐藤京子様
- 梨 里の駅ふるさと市場 木付弘子様
- 麦茶 生活協同組合コープおおい様
- トマト・ピーマン・なす 高橋恵一様
- コーヒー牛乳ゴフレッツ 宝コンフレット(株)様
- 衣類・雑貨 谷まい様
- パン 友永パン様
- かぼちゃ 仲内隆様
- とうもろこし・そうめん・梨 中山田正春様
- チーズケーキ・お菓子 南光物産(株)様
- 納豆 二豊フーズ(株)様
- こんにやく 非常利一般社団法人 おおくわけ 代表理事 三ヶ尻英明様
- お菓子 牧野千里様
- 栗 麦の会様
- タオル 村瀬久美子様
- 花火・ボトル・水筒・学習机 大分北営業所様
- 物品 森田佳奈子様
- 衣類 山本恵美子様
- スコーン・洋菓子 山本花織様
- ラプリーテーブルティールームアンドデリ

招待・奉仕

- 金曜学校
- 別府不老町教会 尾崎二郎様・川野是様
- 別府教会 庄司宣充様
- 別府野口教会 清野量様
- ハンドマツサージ ハンドバードの皆様
- 書道 荒金節子様
- パーベキュー
- 食育子どもたちと触れ合いながら食の文化を知る
- 学習ボランティア
- 別府ロータリークラブ様

- 安東秀典様・井上せつ子様・原優月様
- 大分テロ軍団結成25周年記念コンサート招待
- 集いの場くるみ ボランティア
- 原優月様・隈元聖蘭様・吉里風香様
- 衛藤志歩様・横大路明子様
- 小手川裕一様・尾野高史様
- 明治安田生命様より7名様
- west village 西村大輔様
- beauty MORE 中村雄一様
- hair salon Aiwa 立川奈美様
- 散髪奉仕

- わらび餅
- ずいき・梨
- 黒木正道様
- 二宮洋典様
- 山本宜雄様

クリスマス祝会のお知らせ

児童養護施設栄光園では、毎年12月の第3土曜日にクリスマス祝会を行います。本年度は、12月21日(土)15時30分より礼拝と祝会が始まります。年末の大変ご多忙な折とは思いますが、心を静めてイエス・キリストのご降誕を子どもたちと共に祝いいただければ幸いです。事前にご連絡をいただければ助かります。

編集後記

今年、大きな地震や大雨による洪水や土砂災害、不安定な気象状況による竜巻など災害の多い年となりました。先日、防災をテーマにした研修会で「いつもの習慣がもしもに役立つ」と教えていただきました。(1)自分では自分から(2)片付けと整理整頓(3)規則正しい生活リズムを(4)早寝早起き朝ごはん(5)前向きにらえて(6)トライする。日々の暮らしを丁寧にすごしていくことがなによりも大切なことなのではないかと思えます。習慣になれば意識せずとも知らず知らずのうちに防災対策をしていることになるのです。もしもを考えて心の準備をしておきましょう。

(原田)



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

賛助会員募集

年会費、一〇千円、但し、何〇でも、分割可。
ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務局は、別府市南荘園町3組です。
賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。

郵便局での振込は左記までお願い致します。
口座名義 社会福祉法人 栄光園
口座番号 0193002200748